

センターに向かって進め その1

大学入試センター試験の受験案内をお読みになったことがありますか。

A試験概要、B出願、C出願後、Dリスニング、E試験、F試験実施後、Gその他、H高等学校等コード表という部建てになって、例えば、A試験概要なら、

- 1 令和2年度大学入試センター試験実施日程
- 2 出題教科・科目等
- 3 試験期日・試験時間割という項目で、細部まできちんと記載されています。

今回の英語4技能検定民間試験については、一人一人に対する文章は何も示されないで、ネットにあるホームページにある情報で進めてくださいということでした。

つまり、まだ何も決まっていなかったのです。試験実施の場所も不明確、日時も不明確、時間割も不明確、対応は業者任せということなので、これでは、基本的に、国が主導する共通テストになっていないのではないかと受け取れます。

さらには、土日に試験監督を教員がする場合は、様々な手続きによって、週休日に働いてもらう手立てを講じて、その監督の責任に相当する手当を支給しながら、それが公務員としていただいている給料と重ならないような手続きを講じて、いわば主体がお願いして働いていただいているというスタンスで行っており、どうしてもできない用事がある場合は、勤務を命じることはできないのだから、学校全体の職員に呼びかけながら、生徒のためにという視点から、行っているという現実を見た場合、実際、自分の学校の生徒の監督は公正公平性から無理だということとなると、違う学校に行っていたら試験を監督するということになり、そのことが大学入試センター試験の場合でも、高校教員には試験監督をさせていないという事実からも、現実離れした構図であったことは事実です。

地方の高校生の格差を広げることがないように、地方の校長協会では、先生方をお願いしていかなければならないということも含みつつ、それぞれの県の中で、大学を会場にすることもままならず、地域によっては、高校を会場にすることも視野に入れ、調整を図っていたことも事実であり、業者のスタンスとして、高校側におんぶにだっこであったことは、間違いのない事実であると考えます。

センター試験はそれほど、厳粛な手続きを踏んで出来上がっているわけだから、会場を高校にするにおいても、必ず大学関係者が監督をするのであり、高校の教員が出入りできる範囲も限られているということにも、システムを変えようとする方々は何もわからなかったということが現実なのではないでしょうか。

まあ、この話はさておき、そんな風にきちんと指示されている受験案内は、この土日の間に1時間で読めるので、もう一度読んでおいてくださいね。